



154 2026/02/10

編集・発行：化石研究会事務局
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1
群馬県立自然史博物館 高栄祐司気付

第44回(通算第161回) 化石研究会総会・学術大会 (神奈川県立生命の星・地球博物館)のお知らせ

化石研究会第44回(通算第161回)総会・学術大会のお知らせを致します。今回は中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性に関する講演が企画されています。ふるってご参加ください。

■日 時：2026年5月16日（土）13:00～16:30
5月17日（日） 9:30～12:30

■会 場：神奈川県立生命の星・地球博物館（神奈川県小田原市入生田499）講義室
会場へのアクセスについては4ページをご覧ください。

■主 催：化石研究会、共 催：神奈川県立生命の星・地球博物館

■日 程：

5月16日（土）

11:00～12:30 運営委員会（会議室）

13:00～16:30 シンポジウム「中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性」

　　司会者：樽 創（神奈川県立生命の星・地球博物館）、田中嘉寛（札幌市博物館活動センター）、木村敏之（群馬県立自然史博物館）

17:30～20:00 懇親会（小田原駅周辺で開催します）

5月17日（日）

9:30～11:00 一般講演

11:30～12:30 総会

* 総会終了後展示室をご自由に見学してください。

■参加費（当日受付で払込み）：一般 1000円、大学生 500円、高校生以下 無料

懇親会申込・一般講演申込：4月3日（金）締切

講演要旨送付：4月24日（金）締切

上記の申し込み・送付は電子メールで、詳しくは2ページをご覧ください。

事務局 犬塚則久（電子メール：ashoroa@yahoo.co.jp）

シンポジウム

「中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性」

樽 創（神奈川県立生命の星・地球博物館）

田中嘉寛（札幌市博物館活動センター）

木村敏之（群馬県立自然史博物館）

新生代新第三紀中新世は、日本の古脊椎動物相において大きな変化がみられた時代であるといえるだろう。当時は日本列島が大陸から離れて列島となり、日本海ができ、またモンスーンが発達した。それに伴い、気候も変化したようだ。中新世の気候は日本海ができたこともあり、暖かさと寒さの差が大きくなり、また陸上の気候と海中の気候で差があったようで、海中の気候は、陸上の気候よりも変動が激しかったようである。また、日本海の形成は、約 20Ma に開き始めて、そして 5 Ma 前後まで変動が続く。その中新世の海の中を、古脊椎動物の中でも特に海棲哺乳類に絞って焦点を当ててみたい。海棲哺乳類の研究の進展をうけ 1983 年に海生脊椎動物シンポジウムが行われた。さらにその 10 年後の 1993 年にも同じ枠でシンポジウムが行われ、それぞれ地学団体研究会から、地団研専報第 30 号「海生脊椎動物の進化と適応」、第 43 号「海生脊椎動物の進化と適応 2」として報告書が出版されている。一方、国際的には 1992 年に京都で開催された IGC における海生脊椎動物に関するシンポジウムの特集号として、日本地質学会が発行する *The Island Arc* の Vol. 3 Issue 4 として「*Evolution and Biogeography of Fossil Marine Vertebrates in the Pacific Realm*」が 1995 年に出版されている。また、日本古生物学会では、2004 年に海生哺乳類に関するシンポジウム「生物イベントとしての哺乳類の海生適応」が行われ 2005 年に日本古生物学会和文誌「化石」において特集号が出版された。そして、化石研究会の化石研究会会誌では海棲哺乳類化石に関して、2008 年に「ヒゲクジラの進化」、2016 年に「日本の海棲哺乳類化石」、2024 年に「東北・北海道の鯨類化石研究の現状と展望」と 3 回の特集が組まれている。また、一般図書についても「イルカ・クジラ学」(2002 年)、「鯨類学」(2008 年)、「ケトスの知恵」(2012 年)、「続イルカ・クジラ学」(2015 年)など多くの書籍が出版されている(いずれも東海大学出版会)。また鯨類だけではなく、2023 年には「鰐脚類の進化」(東京大学出版会)が現生及び化石鰐脚類の研究者により出版された。そこで今回のシンポジウムでは、これら日本における近年の海棲哺乳類研究の進展を受けて、特に中新世の時期に注目し、最新の研究成果をもとにその多様性を探る。

本シンポジウムのテーマは「中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性」である。日本海が開き海洋環境の大きな変動がおこった中新世という時代に注目する。また、近年では加速度的に多くの海棲哺乳類に関する研究が出版されるようになり、それに伴いそれまで知られていなかった新たな分類群の発見や系統関係の見直しなども行われている。そこで、本特集では、各分類群に深く関わる方々により、各分類群について可能な限り現時点での最新の知見を紹介するとともに、その多様性を議論したい。

シンポジウム 「中新世の日本近海における海棲哺乳類の多様性

5月16日（土）13：00～16：30

13：00～13：10 会長挨拶 平山 廉

13：10～13：15 世話人挨拶 樽 創（神奈川県立生命の星・地球博物館）

13：15～13：45 講演1 田中嘉寛（札幌市博物館活動センター）
「1995年以来のヒゲクジラ類化石研究の進展」

13：45～14：15 講演2 木村敏之（群馬県立自然史博物館）
「1995年以来のハクジラ類化石研究の進展」

14：15～14：45 講演3 甲能直樹（国立科学博物館）
「日本における鰐脚類研究と中新世という時代」

14：45～14：55 休憩

14：55～15：25 講演4 川谷 文子（飯田市美術博物館）
「日本における束柱類研究と中新世日本海」

15：25～15：55 講演5 長澤一雄（元山形県立博物館）
「日本産海牛化石の産出状況と課題」（仮題）

15：55～16：25 総合議論

* 博物館から徒歩3分の入生田駅から小田原駅行き電車は17：05（260円），
小田原駅東口行きのバスは17：09（400円）に発車します。

懇親会

小田原駅周辺、会費6000円程度の予定。申込みは、メールでお願いします。

申込先アドレス：ashoroa@yahoo.co.jp（事務局 犬塚則久）

申し込み：4月3日（金）締切。

一般講演（口頭・ポスター）の募集

申込みは、メールでお願いします。

申込先アドレス：ashoroa@yahoo.co.jp（事務局 犬塚則久）

件名：第44回化石研究会総会 個人講演申込

記載事項：①講演者氏名、②所属・連絡先、③演題、④口頭・ポスターの区分

講演申込の締切：2026年4月3日（金）講演要旨の締切：2025年4月24日（金）

※例年より締切が早いので、早めにお申し込み下さい。

講演要旨の書式：A4判（縦）1枚に演題14ポイント、発表者名11ポイント、本文10.5ポイントとし、本文1300文字程度として作成してください。

※要旨集を編集する際に、フォント、レイアウト等を調整することがあります。

一般講演（口頭）：講演15分を予定していますが、講演申込みの状況により若干の変更を生じる可能性があります。Windowsのパソコンを1台用意する予定です。Macの方はご自身のパソコンと変換コネクタをご持参ください。発表用ファイルはUSBメモリで渡せるようにお願いいたします。

運営委員会の開催について

役員の方はご出席ください。

日 時：5月16日（土）11:00～12:30

場所：神奈川県立生命の星・地球博物館 講義室

■ 神奈川県立生命の星・地球博物館へのアクセス

箱根登山電車「入生田」駅（JR 小田原駅から約 10 分）下車。

* 運営委員会にご出席の方は箱根登山電車小田原駅発 10:28 にご乗車ください。

伊豆箱根バス、JR 小田原駅「東口」5 番バス乗り場から、

箱根園方面（約 11 分）、「入生田」下車。徒歩すぐ。

時刻表については、伊豆箱根バスの HP をご覧ください（QR 参照）。



* 詳しくは神奈川県立生命の星・地球博物館ホームページをご覧ください。

<https://nh.kanagawa-museum.jp/visit/access.html> (右上の QR 参照)

「古生物学のための解剖学セミナー」の報告

2025 年 11 月 3 日、東京都市大学 6 号館化学実験室で開催されました。そもそも古生物学会での発表を聞いて、解剖学の基礎知識の乏しさに気づいたのが始まりです。地学や古生物を学ぶ学生に聞くと、大学では解剖学関係の講義は一切ないそうです。そこで、広く古脊椎動物学を志す若手研究者に骨や筋の基礎知識を普及しようと化石研主催のセミナーとして企画したものです。どのレベルの人たちが何人ぐらい集まるのか見当もつかず、手探り状態でした。化石研のホームページにも案内を出しましたが、結局初回の参加者は 11 名で、いずれも身近な骨ゼミ生でした。骨学のプリント説明の講義とスライドを 200 分ほど行いました。参加者の要望に応えて、次回は筋学をテーマに春ごろを予定しています。

(犬塚則久)



化石研研究会会誌 J-STAGE 登載にかかるカンパのお願い

陽春の候、会員ご一同様におかれましてはより一層のご清栄お喜び申し上げます。

さて、2023年6月の第41回（通算第157回）総会（山形）で、化石研究会会誌のJ-STAGEへの登載が決定されました。その作業の業者委託は、特別会計（約94万円）で賄うことになりました。

その決定を受け、2023年9月にJ-STAGEサービス利用を申し込み、同年11月に化石研究会会誌のJ-STAGE登載が採択されました。そして会誌の登載に向け、事務局と会誌編集委員会では2024年7月までにすべての会誌の透明テキスト付PDFを作成しました。会誌のJ-STAGE登載は、委託業者により同月から始められ、2026年2月6日現在、第30巻1号（2001年7月）から第57巻第1・2号（2024年12月）が公開されています。

しかしながら、残りすべてのバックナンバーのJ-STAGE登載にかかる作業の委託業者による見積は、第36巻以前の抄録・引用文献の修正料金が加わり、110万円余りとなっており、これまでにいただいたカンパ22万円を含めた特別予算の残額約56万円では50万円余り不足しています。

つきましては、できるだけ多くのバックナンバーをJ-STAGEに登載するためには、会員の皆様に、1口1,000円、1口以上、可能であれば2口以上のカンパをお願いする次第でございます。事情ご賢察のうえ、多数のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、カンパは、振込用紙に「J-STAGE登載カンパ2口2,000円」のように明記して、会費と一緒にお振込みください。ご支援いただいた会員は、化石研ニュースに御芳名を掲載し、謝意を表します。

化石研究会 会長 平山 廉

>>> 事務局だより <<<

- ◆ 平山会長からのお願い（5ページ）のとおり、会員の皆様には「J-STAGE 登載カンパ」を1口1,000円（可能であれば2口以上）でお願いしています。ゆうちょ銀行（郵便局）の払込取扱票を使い、「J-STAGE 登載カンパ2口2,000円」のように明記してお振込みください。昨年4月27日から今年1月29日までに、下記の会員からJ-STAGE登載カンパを頂戴しております。ご協力ありがとうございました。引き続き、多数のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

J-STAGE 登載カンパ御協力者芳名簿（2025/4/27～2026/1/29）

石田吉明、大澤 進、小寺春人、近藤洋一、柴 正博、関谷友彦、瀬戸大暉、高棄祐司、谷戸 茂、谷本正浩、中川久雄、仲谷英夫、廣田清治、三島弘幸、三井翔太、村上瑞季（五十音順敬称略）

- 当会会費は「前納制」となっています。未納の会員は、ゆうちょ銀行の払込取扱票を使って、2026年度分の会費（一般4,000円、学生2,000円）を納入してください。J-STAGE登載カンパも同様に振込をおねがいします。
- この化石研ニュースを郵送で受け取られている会員の方で、電子メールでの受け取りが可能な会員はメールアドレスをご連絡ください。ニュースのPDF版（カラー）を電子メールでお送りします。費用と労力の削減のために是非とも御協力ください。
- 会誌やニュースの送付先（ご自宅、勤務先）が変更となった際には、事務局までご一報ください。

編集・発行：化石研究会事務局

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館 高棄祐司 気付

TEL: 0274-60-1200 FAX: 0274-60-1250 E-mail: BXJ04105@nifty.ne.jp

ゆうちょ銀行振替口座 口座記号 00100-7 口座番号 633288 加入者名 化石研究会

ウェブページ <http://www.kasekiken.jp/>

化石研ニュースは、上記の化石研究会のウェブページでも見ることができます。前号までのニュースも掲載しています。